

# The 15th International Conference on Flow Injection Analysis & the 25th Anniversary Meeting of Japanese Association for Flow Injection Analysis 報告

大阪府立大学産学官連携機構 長岡 勉

## 1. はじめに

2008年9月28日～10月3日に愛知工業大学本山キャンパスおよび名古屋ガーデンパレスで開催されました標記会議の報告をいたします。International Conference on Flow Injection Analysis including related techniques (ICFIA)は、皆様ご存じの通り数年周期で世界各地において開催されるフローインジェクション分析の国際会議ですが、昨年のドイツ・ベルリンに続き、今年は名古屋において、酒井忠雄先生と本水昌二先生を日本側オーガナイザーとして開催されました。この会議では、学問的進歩はもちろんですが参加者の交流も大事な目的の一つであり、私はまだICFIAに参加し始めてそれほど年を経ているわけではありませんが、会議の楽しさにつられてほぼ毎回参加しています。今回も、参加者全員にできるだけ気持ちよく会議期間を過ごしていただけるようにと、準備委員会委員一同努力しました。その甲斐あって、これといったトラブルも無く予想以上の成功を収めることができました。唯一問題であったのは天候ですが、それもエクスカーションの日からは好天に恵まれ、国外からの参加者にも日本の秋を十分に満喫していただけたものと思います。また、今回はJAFIAにとっても節目の創立25周年記念講演会であり、本会の今後の発展を占う大事な事業となりました。

## 2. 会議概要

レセプション当日の9月28日(日)午前11時30分より愛知工業大学本山キャンパスにおいて第4回準備委員会(委員32名が出席)が行われ、最終打ち合わせを行いました。同所2Fにおいて16時からレジストレーション開始となり、受け付け業務が順調にスタートしました。参加登録者は202名、内、国内一般93名、国内学生30名、海外一般55名、海外学生24名であり、ICFIAとしては過去最高の登録者数となりました。(同

伴者は国内2名、海外4名)。特に海外からの学生に対しては登録料15,000円の内10,000円がその場でキャッシュバックされ、主催者の粋な計らいに思わずニコリとする学生が多く見られました。学術講演の内、口頭発表は44件、ポスター発表は121



9月28日 レジストレーションの様子



レセプションでスピーチする酒井先生



レセプションの一コマ

件でした。

18時からはウエルカムレセプションが始まり、軽食やビールを手にベルリン以来の再会を喜び合いました。

翌29日(月)から名古屋ガーデンパレス3F「栄」に会場を移して、会議本番となりました。9時からOpening Ceremonyが行われ、続いてChairman of ICFIA2008であるGary Christian先生より”Memories: A brief history of the International Conference on Flow Injection Analysis”と題するOpening Addressがあり、FIA分析の過去、現在、将来展望について講演がありました。多くの研究者の写真、会議風景、会議で参加者に渡された記念品などが丁寧に紹介されました。続いて4件の一般講演があり、コーヒブレイクの後にさらに3件の講演が昼食までに行われました。14時からの午後のセッションでは3件の一般講演があった後に15時から17時まで同じ会場で40件のポスター講演が行われ、多くの参加者で賑わいました。最近では打ち解けて議論できるポスターセッションに人気があり、また、口頭発表には少し重圧を感じる学生にはよい国際発表の機会になったと思います。一方、学生のポスター講演ではStudent Poster Awardのための採点が担当委員により密かに(?)行われておりました。期間中、会場では協賛各社による機器展示も行われ、参加者の関心を集めていました。

第2日目、30日(火)は酒井先生の”Activities of Japanese Association for Flow Injection Analysis: 25<sup>th</sup> Anniversary”と題するWelcome Addressがあり、JAFIAの活動の歴史と現況について丁寧な説明がなされました。続いてUniversity of Texas at ArlingtonのP. K. Dasgupta先生の”Ionics. An ionic diode behaves as an electrolyte generator and a charge detector”と題する招待講演がありました。その後、一般講演へと移り午前中に計8件の発表がありました。昼食後、3件の一般講演の後、15時よりJAFIAの授賞式が執り行われ、FIA学術賞として8人の先生方(内、国外研究者3人)、またFIA進歩賞として2人の先生方が表彰されました。その後、前日同様ポスターセッションとなり、40



講演する Christian 先生



30日のFIA学術賞、FIA進歩賞授賞式



2日の創立25周年記念FIA学術荣誉賞授賞式

件の発表がありました。

10月1日(水)は高山および白川郷へのエクスカージョンが行われました。

第4日目、2日(木)は名古屋大学の馬場嘉信先生による”Microfluidicis for single biomolecular and single cellular analysis”と題する招待講演が行われ、流れ系を利用した単一分子計測が発表され、聴衆の関心を集めていました。その後午前中に6件の一般講演、昼食後には2件の一般講演が行われました。15時からポスターセッションとなり、41件のポスター講演が行われました。18時からバンケットが行

われました。Welcome Address に続いて創立 25 周年学術栄誉賞授賞式が行われ、日本の先生方 2 名を含めて計 11 名の先生方が受賞の栄誉に輝きました。また、宴もたけなわとなった頃、次回 ICFIA 予定国のタイ研究者からのプレゼンテーションがあり、開催地の美しい風景が印象に残りました。

最終日、3 日（金）は午前中 4 件の一般講演が行われ、University of the Balearic Islands (Spain) の V. Cerdà 先生による”Combined use of flow techniques with chromatographies”と題する招待講演で、会議の全講演は終了しました。その後、Closing Ceremony が行われ、学生ポスター賞 10 名 ([http://aitech.ac.jp/~analabo/img/topics/15th\\_ICFIA080928/poster\\_aw.pdf](http://aitech.ac.jp/~analabo/img/topics/15th_ICFIA080928/poster_aw.pdf)) の発表が中野恵文先生により行われました。続いて小熊幸一先生による Closing Remarks があり、会議のすべての日程は終了し、一同、名残惜しい思いを胸に抱きながらそれぞれの帰途につきました。

### 3. ソシアルイベント

国際会議の楽しみはなんといってもバンケットやエクスカーションなど全員参加型のイベントでしょう。「ICFIA の参加意義はここにあり！」と、会議場とは打って変わって元気になられた方も「若干名」おられました。

i) バー 昼間は講演で頭を使い、終了後はリラックス。アルコールが入ればその効果は倍増です。恒例の”Unofficial ICFIA Bar”ですが、今回も OPEN しました。持ち込み、寄付のアルコール類、ジャパニーズ・スナックを手に話も弾みました。

ii) エクスカーション 楽しみにしていた水曜日の高山・白川郷方面へのエクスカーションですが、折から台風 15 号が急旋回して日本へ接近、雨の朝を迎えました。しかし天気予報では高山地方は晴れ、一同安堵して 8 時過ぎに 3 台のバスに分乗しました。各バスはボランティアでお願いした女性による堪能な英語ガイドで順調に滑り出し、名古屋市内を抜けて高速道をしばし北上すると雨も小降りとなりました。ひるがの高原 SA で小休止したときには青空が広がり、すがすがしい高原の初秋を満喫できました。さらに 30 分ほどバスで東海北陸道を北上



Bar での一コマ その 1



Bar での一コマ その 2



エクスカーションでの昼食 — 手前は著者 (Trojanowicz 先生提供)



エクスカーションの一コマ (高山散策)

し、高山市内に到着、市内のホテルにてバイキング形式の「豪華昼食」をとりました。特に国外からの参加者には beautiful but small の日本食からしばし解放されたこともあり、評判は上々でした。昼食後は高山市の古い街並みを1時間程散策し、その後、バスはさらに北上して白川郷へと向かいました。15時頃に到着、1時間程度、合掌造り旧家の数々を訪問するなど、古い日本の風情を楽しんだ後に19時過ぎに名古屋に戻りました。名古屋市街からは想像もできない日本のいわば原風景に、国外からの参加者は言うに及ばず日本人の私も少なからず感銘を受けました。

iii) バンケット ソシアルイベントの最後は2日(木)18時より開催されたバンケットです。まず、主催者を代表して本水先生より Welcome address があり、次に日本分析化学会会長の渡會仁先生からの祝辞がありました。その後、FIA 学術栄誉賞の授賞式が執り行われました。終了後、日本分析化学会中部支部支部長の湯地昭夫先生による乾杯のご発声で賑々しく開宴され、和洋中立食形式の食事を楽しみました。特に、テーブルに出された料理は和の感性にも優れたもので、質・量共に満喫できました。食事が一段落したところで、琴の演奏が始まり、参加者一同、日本の音色にしばし優雅な時間を過ごしました。琴の演奏が終了し、高知大学の受田浩之先生の司会によるビンゴが始まると会場は一転して活気づきました。多数のプレゼントが用意されていましたが、もう少しでビンゴには達しなかった私には少し未練が残りました。

#### 4. 終わりに

2007年のベルリンでのICFIA以来、検討を重ね、綿密に計画を練ってこられた酒井先生、本水先生、本当にご苦労様でした。また、プランの連絡、実行、各種手配など様々な業務に携わり、会議を支えてくださった手嶋紀雄先生、そして奥様、ありがとうございました。愛知工業大学のスタッフ、学生の皆様にも謝意を表します。また、広告や寄付などで会議を支援していただきました関係企業・団体の皆様にもお礼申し上げます。日本分析化学会中部支部の皆様にもお世話になりました。そして最後に準備委員会委員



エクスカージョンの一コマ(白川郷)



バンケットでの琴の演奏



バンケットでのビンゴ 盛り上がりました。



ビンゴ司会の受田先生 熱演ご苦労様でした。

の皆様、ご苦労様でした。